

超高齢化が進む現在の社会において、65歳以上の人口は2012年10月時点で総人口の24・1%となりました。一人暮らしの高齢者も増え、もしもの時は残された身のまわりの生活用品の整理に遺族は途方に暮れることとなります。

「遺品整理士認定協会」を知っていますか？

故人のお部屋の片づけ、清掃、不要品の処分などの遺品整理は、これまで遺族により行なわれることが一般的でした。しかし、現代のライフスタイルにおいては、時間的にも人手の面でも、ご遺族の力だけではまかないきれないのが現状です。

そこで、遺品整理事業を代行する業者が登場しました。代行にあたり、遺品の取り扱い手順や法規制等の知識を正しく身につけ、命の尊厳について深く理解し、想いのこもった品々を扱う専門家として活動を行なっています。

「遺品整理」の業務は、人と人・心と心をつなぐ仕事、絆を創造する仕事、命の大切さを伝える仕事であると言えます。故人の遺品を「供養」と「畏敬」の念をもって整理し、配慮ある業務を行なうことで、依頼者の方から感謝される仕事となります。

10年前からあった「遺品整理業」には、高齢化社会、独居老人の増加、核家族化を背景として、ここ数年で多数の企業が

参入してきました。しかし、高額請求や不法投棄などの問題が多発し、グレーな業界だと言われていました。

そこで、業界の健全化を図るため、2011年に「遺品整理士認定協会（以下、当協会）」が発足され、「遺品整理士」という資格が誕生しました。当協会は、遺品整理業に一定のガイドラインを定め、依頼者が安心して利用できる業界をつくり、薄れた家族の証・地域の絆を、遺品

求め、遺品整理士

遺品整理士認定協会

榎 広輔

整理を通じて復活すべく、法例を守り、優れた「遺品整理士」の養成を第一の事業目的としています。

訪問看護・介護業界との親和性

「遺品整理業」は、さまざまな業種の企業が新事業として取り入れています。今までは引越業者、便利屋、葬儀屋、清掃業者、リサイクル業者などが遺品整理業界へ参入してきていました。そして、

最近とくに増えているのが、「訪問看護・介護」事業と遺品整理事業の融合です。

その背景として、訪問看護師・介護士の方は、普段からその利用者のご自宅を訪問しており、高齢者と接する機会が多いことが挙げられます。訪問をした際に、利用者・家族の方から遺品整理の相談をされることがあるそうです。とくに、ご夫婦で暮らされていた方のどちらかが亡くなってしまう、現在は独居で訪問を受けている、という方からの相談が多いようです。

遺品には、第三者からすれば何でもないようなものでも、ご遺族にとってはとても貴重なものという場合があります。ビジネスライクに仕事を進めてしまつては、ご遺族の心を傷つけることにもなりかねません。訪問中にそうした細かな情報をあらかじめ知れる訪問看護師・介護士の方が遺品整理を行なうことは、ご遺族の安心につながるでしょう。

遺品整理業に取り組むことは、事業所の業績を上げ、給与面への反映も期待できます。また、給与が上げられれば、訪問看護師・介護士を志す若い人材も増え、業界全体の底上げにつながることも考えられます。

当協会の設立により、業界内で発生していたトラブルはだいぶんと改善されてきました。しかし、まだまだ悪徳業者がいるのも現実です。そんななか、高齢者と関わる機会の多い訪問看護師・介護士

の方が、遺品整理業界で活躍するようになれば、業界全体の健全化促進につながります。ぜひ参入をご検討いただきたいと思っています。

「国家資格」全国支部設立が目標

当協会は、今後、「国家資格化」をめざし活動していきます。遺品整理を行なう際、資格の取得が全国的に業務化されれば、廃棄物の不法投棄や高額請求防止につながっていくと考えています。

また、協会の会員企業とともに、全国支部の設立も計画しています。支部の設立により、遺品整理の料金体系の均一化、受注のネットワーク化が期待でき、依頼者の方がより安心して遺品整理士を利用できるようになっていくでしょう。

現在、遺品整理で出た大量の廃棄物は、一般廃棄物として処理しなければなりません。この処理が業務として認可されるのはとても難しく、外注せざるをえないため、遺品整理料金の高額化を招いています。そこで、当協会では、一般廃棄物許可業者との連携を図り、摩擦なく外注を行なうことで、より安価な遺品整理を実現できるよう活動をしています。

そして、遺品整理士と高齢者の結びつきを強くもち、社会問題にもなっている高齢者の孤独死防止に努めていきたいと思っています。われわれ一人ひとりが安心して暮らしていける日本にするために、当協会は今後も活動を続けていきます。